



ボランティアセンター「WITH」を設立



高木寛之君（社会福祉学科4年）

昨年11月、同じ学科の仲間4人と学内ボランティア活動の情報発信の場として非営利団体「WITH」を立ち上げた。

知的障害者の施設や老人ホーム、ホスピスなどからボランティアの要請があった際に、Eメールで、あらかじめ登録している学生に対して情報を配信している。学生からの問い合わせに対しても個別にメールでメンバーが対応する。登録者は現在100人を超える。

「これまで学内のボランティア情報は福祉系サークル内だけで回っている感じでした。社会福祉現場実習室には時期を過ぎたボランティア募集のチラシがそのままになっていたり、白山キャンパスにある情報が朝霞に伝わっていなかったりと、うまく情報が回っていないことが気になっていました」と高木君は語る。

ボランティア活動に興味はあってもサークルに入って拘束されるのは苦手、という学生は多く、こうした状況にも閉塞感を抱いていたという。「学生がもっと情報をスムーズに知ることができれば...」との思いが「WITH」の設立につながった。メンバーを拘束することはせず、月例会などの集会は一切行わない方針だ。

「サークルではなく活動支援なんです。自分たちはいわば落穂拾い。あくまで情報を渡すだけで、決めるのは学生です」と控えめだ。

高木君とボランティアの出会いが高

2の冬休みに遡る。ドラマ「金八先生」などで人気の脚本家、小山内美江子さんが中心となっているボランティア活動に参加し、カンボジアで学校づくりなどの手伝いをした。

「お金では得られない何かボランティアにはあります」という高木君。現在卒論の仕上げ、大学院への進学準備を控えた忙しい身だが、合間を縫って知的障害者の施設などを訪問し、介護のボランティア活動を行っている。「できる活動を、自分のできる範囲で」がモットー。無理はしない。そうした自然体こそ本来の『volunteer（有志の、自発的な）』ということかもしれない。

現在「WITH」ではホームページを準備中だ。「今後は他の大学との連携もはかっていきたいですね」と抱負を語ってくれた。

「WITH」の登録は

sw990134@toyonet.ac.jpまで。

完成まぢか

白山再開発カウントダウン

●新緑の頃、落葉・・・？

街路樹はすっかり色づき、葉を落としています。巷が秋から冬の装いへ変わったことを、樹木に教えられることも多いと思います。ということで、今回は学内の樹木と緑化について目を向けて見ましょう。

5月頃でしたか、完成して間もない雨水の森の楠（くすのき）の下で、こんな学生さんの会話を偶然耳にしました。「この樹、やたら落葉してないか？大丈夫かな？」。確かに結構葉が落ちていて、私たちも実は心配をしていました。皆さんご存知の通り樹木には落葉樹と常緑樹があり、常緑樹は落葉しないものだと思いがちですが、実際には新しい葉と入れ替わるため新緑の頃に季節外れの落葉となるのだそうです。なんと人騒がせではありましたが、今もごらんの通り元気です。

●物言わずじっと役割果たす樹木たち

あらためて、学内に目を向けてみるといつも当たり前のようにある樹木も様々な種類と表情があることに気がきます。既存のものでは、ケヤキ、マテバシイ、ハナモクレン、ハナミズキなど、雨水の森には、前述の16本の楠以外にクロガネモチ、キンモクセイ等があります。

都心の限られた空間での大規模な建築の場合、樹木は学内や周辺に吹き抜ける風の影響を極力抑えるために、最適な位置に植えられています。井上記念館も含め白山校舎の各屋上にも低木のサツキ等が植えられていますが、これは、東京都の条例（屋上緑化に関する基準）に基づいたものです。普段何気なく植えられているように見えるこれらの樹木は、皆さんの憩いのためだけではなく、学内の大事な役割を担っているのです。

さて、この再開発における植樹のトリとして、大きな枝垂（しだれ）桜が井上記念館の横に予定されています。学校といえば桜！ですね。

どの樹木も皆さんの学生生活に潤いと彩りを添えてくれることと思います。本学とここで学ぶ皆さんの発展・成長と同じように枝葉を伸ばしていくこれらの樹木を、これからはずっと大切にかわいがってあげてください。

（完成まであと、106日。

平成14年12月15日現在）

